

# 3学年通信

尾道市立高西中学校  
3学年通信第24号  
令和2年7月1日

## 一冊のノート～今週の特別の時間「道徳」より～



今週の道徳は、認知症の祖母のことをとまどいながらも受け入れていこうとする家族の姿を描いた資料を通して、家族の在り方について考えました。家族の形態は時を重ねるにつれて変わっていきます。両親や祖父母が年を重ねたり、病気になったりして、今当たり前のように感じていることが、当たり前ではない状況になることもあります。みなさんが各々に自分の家族を思い浮かべながら、家族について考えた1時間でした。

同居しているおばあちゃんは、共働きの両親にかわり、主人公である僕と弟、2人の孫が幼いころから面倒を見てくれたしっかり者でした。しかし、老いに逆らうことはできず、65歳を過ぎた、ここ1、2年は物忘れが激しくなってきました。季節外れの服装で外出したり、家の中のものを頻繁になくしたりトラブルが絶えません。自分は決して物忘れなどしていないと言い張るおばあちゃんと孫たちとの間に亀裂が生じ、僕は、事あるごとにおばあちゃんを罵っていました。

そんなある日、僕は、おばあちゃんの机の上に1冊のノートを見つけます。そこには、自分でも記憶がどうにもならないもどかしさや、これから先どうなるのかという不安、そして、自ら苦悩しながらも家族のことを一心に思う祖母の強い気持ちが書かれていました。

「おむつを取り替えていた孫が、今では立派な中学生になりました。孫が成長したぶんだけ、私は年を取りました。記憶もだんだん弱くなってしまい、今朝も孫に叱られてしまいました。自分では気づいていないけれど、ほかにも迷惑をかけているのだろうか。自分では一生懸命やっているつもりなのに……。あと十年、いや、せめてあと五年、なんとか孫たちの面倒をみなければ。まだまだ老け込むわけにはいかないぞ。しっかりしろ。しっかりしろ。ばあさんや。」 (道徳の資料より)

授業では、祖母と草取りをした時の「僕」の気持ちを考えたり、にっこりとうなずいた祖母が「僕」に言いたかったことを考えたりしました。それらを通して、今の自分は家族の支え合っただけのことなのだということに気づき、「助け合うこと」、「支え合うこと」、そして「自分が家族のためにできることはなんだろう」と考えていましたね。

「今」という時間は永遠ではありません。だから、とても貴重で、かけがえのないものです。同じように、家族とともに過ごす時間も永遠ではなりません。いずれ、みなさんも進学や就職等に伴い、家族と離れて暮らすことになるかもしれません。そう考えると、普段は実感することはないけれど、家族とともに過ごせる「今」という時間を大切に過ごしていきたいですね。

### 【授業の感想より】

- ・今日の授業で最後の祖母が言いたかったことを考え、その中から支えてくれてありがとう！という意見が出てきた。家族で支えるとは…？と疑問も出てきた。そして、僕は助け合うなどできていないと思った。だからできたらいいなと思った。
- ・今日の授業で、自分もおばあちゃんに昔からいろいろしてもらっているのもっと感謝の気持ちとありがとうの気持ちを強くしようと思いました。そして、その気持ちをおばあちゃんに伝えようと思いました。いつかおばあちゃんに孝行ができるように頑張っていこうと思ったし、もとお手伝いをしようと思いました。
- ・記憶がだんだんよわくなってしまふことは仕方がなくても、物忘れがひどいからといってひどいことを言うのではなく、優しく見守って、今の自分にできることを恩返しとして、何かひとつずつでもしていこうと思いました。
- ・今日、この授業を通して、改めて家族にありがとうという気持ちを伝えようと思いました。私の家も祖父母と暮らしているのだから、この話の主人公はそのまんま自分だと思いました。文句を言うのではなく、感謝の気持ちを言おうと思います。
- ・私のおばあちゃんもこういうふうになってしまうのは怖いし、もし私のことが分からなくなったらすごく悲しいけれど、今までお世話になってきた分、そういう時がきたら、しっかり助けていきたい。イライラすることはあるかもしれないけれど、心に寄り添っていくのが大切なのだと思う。

